



今号の
内容

- ◆ 病院長あいさつ
- ◆ 医科歯科連携について

病院長あいさつ



日頃は、当院に格別の御支援・御鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

令和4年4月、住友前院長からバトンを引き継ぎ、院長に就任して以来、「誠実で信頼される病院となる」との理念のもと、地域に根ざした医療を実践し、地域の皆様に信頼される病院づくりに全力で取り組んでおります。

当院の使命は、「地域医療の要」となることであり、急性期疾患、特に救急疾患への対応が第一と考えております。一昨年度の人口10万人あたりの救急車受入数は、「全国で30位」となりましたが、今後も「断らない医療」を実現して参ります。

また、人生100年をいかに健やかにその人らしく生きていけるような社会を目指し、疾病の発症予防、そして発症後の急性期から慢性期治療、さらには再発予防に対応できる地域医療を皆様と一緒に構築し、地域の皆様が安全、安心に暮らしていけるよう努めて参ります。

そのために重要となるのが、「人材の確保・育成」であります。

昨年度は、学生実習を充実させ、杏林大学の医学生を受け入れ、今年度は、当院単独の臨床研修医を迎え入れており、院内は活気にあふれております。

10年後、20年後の地域社会を考えると、次世代を担う若手医師の教育は非常に大切です。また、職員が教育に関わることで、医療の質の向上に結びつきます。

「地域」を学んだ医師が、将来再び当院に帰って来たくするような、そんな魅力ある病院を目指し、そして、当院が「学びを通して地域医療の要となる」ように、ますます頑張っ参ります。

その一環として、老朽化した外来棟は、「全国でも類を見ない」保健所も一緒になる形で、「新外来棟」として生まれ変わることが計画されております。

数年後は、さらに一層、救急、災害そして新興感染症に対応できる病院となることを期待しております。

今後も職員一丸となり、「四国のへそに根ざして、地域住民の安全と安心を守ることができる病院」として、皆様の安全で安心な生活と健康維持に貢献できるよう努力して参ります。

引き続き、御支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



医科歯科連携について

全身の健康と口の中の健康は密接に関係しています。例えば、

- 歯周病は糖尿病や心疾患、脳卒中、動脈硬化などのリスクを高めます。
- 全身麻酔の手術後に、お口の中の細菌が気管や肺に入ることにより、誤嚥性肺炎と呼ばれる肺炎がおこることがあります。
- がんの治療で抗がん剤の投与や放射線療法の際、痛みを伴う口内炎ができることがあります。
- 妊娠中や出産後は、特に歯周病になるリスクが高まります。
- 歯がなく、入れ歯をしていない人は、歯が20本以上ある方に比べて、認知症リスクが1.9倍になります。適切な入れ歯を使うことで認知症リスクの軽減ができます。
- 骨粗しょう症の治療薬の一部には、副作用としてあごの骨を壊死させてしまうものがあります。



これらのリスクは、普段から継続して虫歯や歯周病の治療、**口腔ケア**を行うことによって軽減させることができます。

「**口腔ケア**」とは、歯ブラシや歯間ブラシ、スポンジブラシなどを使用し、歯牙や歯肉、舌、粘膜、義歯の清掃を行い清潔に保つとともに、口腔内や口周りのマッサージなどによって唾液の分泌を促したり、筋肉の緊張をほぐしたりすることを言います。



口腔ケアを行うと、食べる・話す・笑うなどの機能が改善し、生活の質（QOL）の向上が期待できます。



日頃から定期的に歯科受診をすることを推奨します。

また、入院した場合、慣れない環境での緊張やストレスで、今まで気にならなかった歯牙や歯肉の炎症を引き起こすことがあります。義歯や歯牙の調子が悪いと栄養摂取が不良となり、回復に悪影響を及ぼすおそれもあります。よって入院することがわかっている場合は、あらかじめ歯科受診を行うことが大切です。

『医科歯科連携とは』



医科歯科連携とは、医科と歯科が協力し合い、患者さんの健康を包括的にサポートすることです。全身麻酔の手術やがんの治療を行う患者さんの口腔内の問題点を歯科が介入し合併症を防いだり、生活の質の向上を図ったりします。

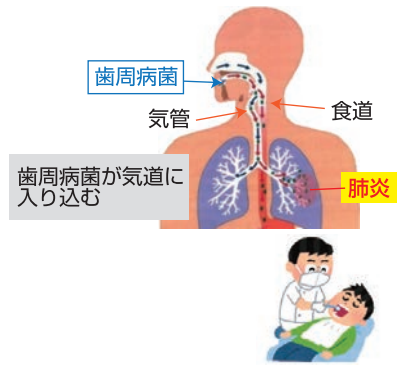
徳島県では令和3年6月17日、本県における医科歯科連携の充実を図り、患者の生活の質の向上を図ることを目的として、徳島県病院局と一般社団法人 徳島県歯科医師会との間で、「医科歯科連携の推進に係る相互協力に関する協定」を締結しました。それに伴い、医療歯科連携検討プロジェクトチームを立ち上げ、①医科歯科連携の推進に関する情報共有、②県立病院と歯科診療所の相互支援に関する課題検討、③共同研修会の開催などにおいて連携・協力を行っています。

『周術期口腔機能管理』

全身麻酔で手術を行う場合、口から気管にチューブを入れて人工呼吸を行います。虫歯や歯周病があると、口の中にたくさんの細菌が発生し、その細菌が気管や肺に流れ込んでしまうことがあります。これによって起こる肺炎が「誤嚥性肺炎」です。

手術の前後に口腔ケアを行うことによって、全身麻酔後の肺炎が少なくなることが証明されています。また、手術後の回復を早め、退院までの期間が短くなることも確認されています。

そのため歯や口腔内の問題を解決してから手術を受けてもらったり、手術当日はいつもより丁寧に歯磨きを行ってもらうようお願いしたりしています。



『がん治療における医科歯科連携』

化学療法（抗がん剤投与）や放射線治療を行う場合、がん細胞だけでなく正常な細胞もダメージを受けます。唾液を作る細胞がダメージを受けると、口腔乾燥を引き起こします。

そのため、右の写真のように口内炎ができやすくなります。食事がとれなくなり、病気からの回復が遅れることがあります。

口腔ケアを受けることにより、口内炎のリスクを減らします。口内炎ができてしまった場合は痛みを抑えたり、口の中の乾燥を補ったりして対症療法を行います。

がんの治療時に医科歯科連携を行うことにより、患者さんの早期回復や生活の質（QOL）の向上が見込まれます。

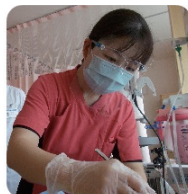


ところで、病院の歯科衛生士はどんなことをしているでしょう

三好病院には歯科衛生士が1名います。歯科衛生士は口腔ケアチームの中心として、医師や看護師から介入依頼があった患者さんの口腔の状態改善に取り組んでいます。具体的には、自分で歯磨きやうがいができなかったり、口腔機能が低下している患者さんに対して、直接口腔ケアを行ったり、義歯適合をチェックしたり、日々のケア方法を看護師に伝えたりします。徳島県歯科医師会から月1回派遣されている歯科医師は心強い存在であり、相談しながら口腔機能管理を行っています。

また、歯が痛む、歯肉が腫れた、義歯が壊れたなど緊急で歯科治療が必要な方には歯科往診へつなぐこともあります。

周術期口腔機能管理においては、予定手術だけでなく緊急に手術を行うこととなった患者さんの管理も行っています。



歯科衛生士



必要時、歯科医師に診察を依頼します

～県立三好病院基本理念～
『誠実』で『信頼』される病院となる

臨時看護師・看護アシスタント募集

随時募集しています。詳しくは当院ホームページをご覧ください。
<https://tph.pref.tokushima.lg.jp/miyoshi/>

ご意見・ご要望がございましたら、ホームページ、または院内ご意見箱までお願いします。
広報バックナンバーは、ホームページ <https://tph.pref.tokushima.lg.jp/miyoshi/> にてご覧になれます。

令和7年7月発行